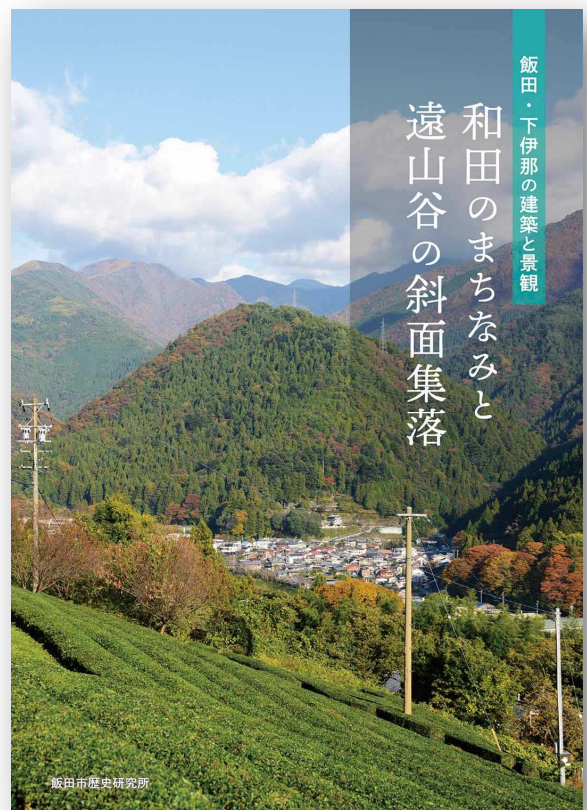


歴史研究所



令和7年11月刊行
『画像で見る 飯田歌舞伎座
—明治の幻の大劇場—』



令和8年3月刊行
『飯田・下伊那の建築と景観
和田のまちなみと遠山谷の斜面集落』

はじめに

飯田市歴史研究所は、平成14年10月に準備室が開設され、平成15年12月に正式に発足した。

「現在及び未来の市民のために、歴史的価値を有する記録を収集し、保存して、広くその利用に供するとともに、歴史、文化等を科学的に調査研究して、これを叙述し、もって市民の教育、学術及び文化の向上発展並びに活力ある地域社会の創造とその持続に寄与する」ことを目標として、調査研究・教育普及・市誌編さん事業を軸に取り組んでいる。

1 沿革

平成9年4月	市制70周年に向けた市誌編さん事業開始
平成13年4月	事業の見直しを決定
7月	飯田市長から飯田市誌編さん事業有識者会議に対し、飯田市誌編さん事業について諮問
平成14年4月	飯田市誌編さん事業に関する答申
8月	飯田市誌編さん事業 今後の方向（中期的計画）について
9月	任期付研究員条例制定
10月	地域史研究事業準備室設置 第1回地域史研究集会「語りつぐ飯田・下伊那の歴史」
平成15年10月	飯田市歴史研究所条例制定
12月2日	飯田市歴史研究所開所
平成17年3月	貴重書庫室整備
平成19年4月	第1回地域史研究集会開催
12月	『満州移民－飯田下伊那からのメッセージ』が第13回平和・協同ジャーナリスト基金奨励賞受賞
平成20年3月	飯田市歴史研究所第2期中期計画の策定（公表）
平成22年11月	『飯田・上飯田の歴史』（仮題）刊行計画の策定（公表）
平成23年2月	『飯田市域の本棟造と養蚕建築の悉皆的調査研究』第1回都市調査研究グランプリ受賞
平成24年9月	『飯田・上飯田の歴史』上巻刊行
平成25年2月	飯田市歴史研究所第3期中期計画の策定（公表）
3月	『飯田・上飯田の歴史』下巻刊行
平成27年2月	文化庁文化芸術振興費補助事業ワークショップ「伊那谷の人形芝居」開催
平成29年4月	飯田市歴史研究所第4期中期計画の策定（公表）
9月	歴史研究所移転（旧鼎東保育園）
令和3年4月	飯田市歴史研究所第5期中期計画の策定（公表）
令和5年7月	飯田アカデミア第100講座開催
令和6年2月	飯田市歴史研究所設立20周年ワークショップ「地域の歴史を未来へ引き継ぐ」を開催
令和7年3月	飯田市歴史研究所第6期中期計画の策定（公表）

2 施設の概要

〔場所〕 飯田市鼎下山538番地 〔構成〕 交流・閲覧フロア、研修室、研究室、事務室、書庫

3 運営組織（令和8年4月1日現在）

所長 副所長（美術博物館副館長兼務）

研究部 研究部長（所長兼務 会計年度任用職員）、研究員3（正規職員1、任期付職員2）、

特任研究員 2 (会計年度任用職員)、事務補助 3 (会計年度任用職員)、顧問研究員 8 (非常勤職員)、調査研究員 8 (委嘱)
 総務係 総務係長、係員 3 (会計年度任用職員 3)

4 令和 7 年度 事業報告

1. 調査研究活動

(1) 研究計画に基づく研究活動

研究計画に基づき基礎研究及び基礎共同研究（基盤調査・課題研究・単位地域研究）を行う。

① 基礎研究

研究員が個人で遂行する研究。研究員は毎年研究計画書を作成・提出し、歴史研究所研究部の承認に基づいて取り組む。期間は原則 1 年間。

研 究 テ ー マ	研 究 者
飯田・下伊那近代の主な歩みをまとめる	伊坪 達郎 (研究部長)
森本州平日記を読む	加藤 陽子 (顧問研究員)
国指定史跡・恒川官衙遺跡の保存・活用を促進するための地方官衙（「評衙」・「郡衙」）と古代地方寺院（「評寺」・「郡寺」、「定額寺」）の研究	田島 公 (顧問研究員)
近世・近代の飯田町を中心とするネットワークの研究	多和田 雅保 (顧問研究員)
小学校の設置運営と地域の関わり ― 日誌類の分析を中心に ―	多和田 真理子 (顧問研究員)
「農村メディア」を通じたパブリック・ヒストリー実践	安岡 健一 (顧問研究員)
山里に生きた人々の意識 ― 身分と職分に注目して ―	吉田 ゆり子 (顧問研究員)
近世信州伊那地域における村社会の構造 ― 座光寺村を素材として ― 近世大平の社会構造と大平街道をめぐる流通	羽田 真也 (研究員)
近現代の飯田下伊那における地域経済と資源	伊藤 悠 (研究員)
明治期の地図・地籍史料に基づく地域景観の復元	岩田 会津 (研究員)
幕末明治大正期、下伊那の文化的活動とその展開	竹村 雄次 (特任研究員)
樽木役の負担に関わる諸問題 3 明治初年の天竜川通船	前澤 健 (特任研究員)
飯田・下伊那の経済・経営史的研究	太田 仙一 (調査研究員)
飯田下伊那地域の寺社と地域社会に関する基礎的研究	竹ノ内 雅人 (調査研究員)
養蚕地帯・下伊那の社会構造と主体	田中 雅孝 (調査研究員)
近世の飯田・下伊那における領主間ネットワークと地域社会の総合的研究	千葉 拓真 (調査研究員)
飯田下伊那の戦争に関わる遺跡と日記の調査（平岡ダム・個人の日記）	原 英章 (調査研究員)
伊那街道における歴史的景観の持続再生に向けた総合的研究	福村 任生 (調査研究員)
満洲移民送出及び引揚げに至る下伊那の社会と経済 満洲移民参加者の書簡の翻刻と解説	本島 和人 (調査研究員)

青年会、青年運動の研究	栗谷 真寿美（市民研究員）
近世清内路の社会構造	坂本 広徳（市民研究員）
ミチューリン会で菊池幸子が作り出した「場」	壬生 雅穂（市民研究員）

②基礎共同研究

研究員や特任研究員が研究代表者となって研究組織を構成し、共同で遂行する研究。基礎研究同様、研究計画書を作成し、歴史研究所研究部の承認に基づいて取り組む。期間は原則2～5年間。

基盤調査	A	史料所在状況調査	羽田 真也（研究員）
	B	史料現状記録調査	羽田 真也（研究員）
	C	オーラルヒストリー調査	伊藤 悠（研究員）
	D	歴史的建造物調査	岩田 会津（研究員）
	E	歴史的公文書調査	伊藤 悠（研究員）
課題研究	A	地方小都市の近代化過程における学校を中核とした文化的ネットワーク構築	多和田 真理子（顧問研究員）
	B	山里の分節的把握－阿智村清内路を素材として	坂本 広徳（市民研究員）
単位地域研究	A	飯田・上飯田	多和田 雅保（顧問研究員）
	B	座光寺	羽田 真也（研究員）
	C	川路	羽田 真也（研究員）
	D	三穂	前澤 健（特任研究員）
	E	松尾	伊藤 悠（研究員）
	F	南信濃	岩田 会津（研究員）

（２）飯田市地域史研究集会の開催

第22回地域史研究集会 9月6日・7日 会場：飯田市役所会議室 参加者延べ142人

参加者内訳 9/6：会場61人・オンライン20人 9/7：会場40人・オンライン21人

農業から拓く飯田下伊那の歴史			
9/6	講演	農書に見る江戸時代の飯田	多和田 雅保（顧問研究員）
	自由 論題 報告	ゴルフ場ではなくりんご団地へ－1970年代飯田市龍江における「開発」のせめぎあい	町田 良（京都大学大学院生）
		祖父青島秋夫の「日記」と満洲移民－ゼミでの翻刻と考察－	青島 重行（歴史研究所満洲移民研究ゼミナール）
9/7	シンポジウム「農業から拓く飯田下伊那の歴史」		
	報告	近世水田の作付け品種－田圃管理と禁じられた稲－	福嶋 紀子（松本大学/中央大学大学院）
	報告	不二道の思想と農業実践	竹村 雄次（特任研究員）
	報告	聞き書きからみる生業の民俗－養蚕を中心にして－	寺田 一雄（柳田國男記念伊那民俗学研究所）
	報告	南信農業試験場の一世紀を振り返る	小川 秀和 （長野県南信農業試験場）

(3) ワークショップの開催

今年度なし

(4) 定例研究会の開催

開催日	内 容	担 当	場 所	参加者
4/19	土地証文からみる貢租の変化 ―久米村を事例に―	前澤 健（特任研究員）	歴史研究所	10 人
7/5	下伊那型サロンと宗教・文化ネットワーク	竹村 雄次（特任研究員）	歴史研究所	9 人
9/27	昭和初期の松川入山林	伊藤 悠（研究員）	歴史研究所	9 人
10/25	明治期上飯田村の土地利用と水系	岩田 会津（研究員）	歴史研究所	7 人
2/28	書状からみる近世社会のネットワーク ―清内路の事例から―	羽田 真也（研究員）	歴史研究所	4 人

(5) 史料研究ノート of 開催

今年度なし

(6) 飯田市歴史研究所年報の編集・刊行

『飯田市歴史研究所年報』第 23 号

分 類	テ ー マ	執筆担当者
特集 「国史跡指定 10 周年 恒川官衙遺跡研究の 最前線 ―浮かび上 がる古代伊那郡の役 所〈伊那郡衙〉―」	趣旨説明	羽田 真也
	文献史料から見た史跡恒川官衙遺跡 ―伊奈評衙の成立・ 評寺の建立と伊那郡衙の機能―	田島 公
	史跡恒川官衙遺跡 正倉院発掘調査の成果	羽生 俊郎
	郡衙正倉にみる在地の建築技術	海野 聡
	恒川官衙遺跡と座光寺の歴史文化	田口 博人
	コメント	小林 正春
	コメント	加藤 友康
	コメント	山口 英男
研究ノート	産業組合破綻・村政混乱から上久堅村開拓団を再考する	本島 和人
調査報告	飯田市内の小・中学校所蔵史料の所在確認調査について	多和田 真理子
	2024 年度歴史的建造物調査	岩田 会津
史料で読む飯田・下伊 那の歴史	王子製紙による山林労働者の米確保と飯田八幡町の米穀 商	太田 仙一
	丸山教の下伊那伝播とその対応 ―松尾支所文書『明治十 九年ヨリ 内達 内諭 内申 物綴込』より―	竹村 雄次
史料紹介	イェール大学所蔵奈良屋文書からみる伊那往還の中馬	竹ノ内 雅人
新刊紹介	岡田正彦著『西岡選書 1 南信州から信濃へ ―原始・古 代編』『西岡選書 2 南信州から信濃へ ―中世・近世・近 代編』	竹村 雄次
	吉田ゆり子著『周縁化された芸能者と近世社会』	竹ノ内 雅人
	満州移民を考える会編『聞き書きと調査研究 下伊那から 満州を考える 5』	栗谷 真寿美

	信濃毎日新聞社編集局編『鍬を握る 満蒙開拓からの問い』	本島 和人
	LYL 運動 100 周年記念事業実行委員会編『LYL 運動 100 周年記念集会 記録集』	伊藤 悠
	青島重行著『青島秋夫日記と満洲移民 ―シベリアに眠る祖父へー』	羽田 真也
	「清内路―歴史と文化」研究会編『史料でよみとく清内路』	前澤 健
	小林旅人著『和傘ってどんなもの？ 阿島の和傘編』	岩田 会津
歴史研究所新刊紹介	史料で読む飯田下伊那の歴史 4 『満洲移民・青少年義勇軍』	伊藤 悠
研究活動助成成果報告	戦後日本農村社会における地域開発 ―1970 年代の長野県飯田市龍江地区(旧下伊那郡龍江村)を事例として―	町田 良
歴史研究所 2024 年度の記録	飯田アカデミア、飯田歴研賞 2024、共同研究成果報告、 歴研ゼミナール・ワークショップの活動報告、 スタッフ研究業績、歴史研究所活動報告	
その他	飯田・下伊那地域に関する歴史・民俗関係 図書・論文・ 研究ノート目録、投稿規定、編集後記	

B5 版 190 頁 1C 400 部

(7) 研究活動助成事業

飯田下伊那地域の素材を用いたオリジナルな歴史全般の研究成果に対し助成を行い、地域史の研究を振興する。

申請件数 0 件

(8) 「飯田歴研賞 2025」表彰事業

飯田・下伊那の地域史研究における優れた研究や活動を表彰し、地域史研究の底辺を広げ、重層的な文化研究活動の環境を整える。

部 門	受 賞 作 品	受賞者
著作賞	『和傘ってどんなもの？ 阿島の和傘編』	小林 旅人
論文賞	「三穂小学校校歌に関する考察」『伊那』第 72 巻第 10 号	林 優一郎
奨励賞	『青島秋夫日記と満洲移民 ―シベリアに眠る祖父へー』	青島 重行

2. 教育活動

(1) 飯田アカデミアの開催

飯田下伊那の歴史や現在を、広い視野から包括的に考えるための素材を提供することを目的として、歴史学を中心に研究者を招いて研究成果を紹介する。3 講座を開催した。

開催日	内 容	講 師	場 所	参加者
7 / 12 13	商業は地域をどう変えたのか 日本小売業の近現代史	満 蘭 勇 (北海道大学准教授)	飯田市公民館	会 38 On 22 延 60

12/6 7	戦後の地域の歴史と個人の歴史	安岡 健一 (顧問研究員)	飯田市役所会議室	会 57 On 21 延 78
2/14	新しい世界史教育を目指して ー理論編&体験編	小川 幸司 (長野県伊那弥生ヶ丘 高等学校 教諭)	飯田市役所会議室	会 58 On 29 計 87

(2) 地域史講座

発行した書籍をテキストとした講座を開催した。

5/24 (土)	下伊那の満洲移民 ー旧役場文書からー	会場：飯田市役所会議室 参加者：会 24 on11 計 35 人
大恐慌下の農村救済請願 ー伊賀良村		田中 雅孝 (調査研究員)
千代分村と農村更生協会の早川孝太郎		松葉 孝子 (満洲移民を考える会)
敗戦間際に送出された開拓団		本島 和人 (調査研究員)
6/28 (土)	下伊那の満洲移民・青少年義勇軍 ー聞き書きと個人の史料からー	会場：飯田市役所会議室 参加者：会 52 on15 計 67 人
少年の日記に見る義勇隊現地訓練所		原 英章 (調査研究員)
少女時代の七年間、開拓地での暮らしを聞く		向山 敦子 (満洲移民を考える会)
開拓団長清水清「青峯遺稿」を読む		土井 麦穂 (短歌誌「旅笛」同人)
敗戦と開拓団の崩壊・逃避行		齊藤 俊江 (満洲移民を考える会)
10/4 (土)	満洲移民に至る道 ー昭和初期の下伊那ー	会場：飯田市役所会議室 参加者：会 44 on13 計 57 人
国民精神作興会と軍教問題対策会		伊藤 悠 (研究員)
満洲事変と中原謹司の政界進出		栗谷 真寿美 (市民研究員)
日露戦争 30 年記念と『川路村従軍記念録』		竹村 雄次 (特任研究員)

1/17 (土)	飯田歌舞伎座 ー明治の幻の大劇場ー	会場：飯田市役所会議室 参加者：会 68 on13 計 81 人
飯田歌舞伎座ー明治の幻の大劇場ー		竹村 雄次 (特任研究員)
飯田歌舞伎座の建築		岩田 会津 (研究員)

(3) 聞き取り入門講座

当研究所ではオーラルヒストリー調査を事業の柱の一つとして活動しているが、近年高齢化等により、新たな聞き取りの担い手育成を目的に開催。

開催日	内 容	講 師	場 所	参加者
2/21	講座編	安岡 健一 (顧問研究員)	美術博物館	31 人
3/6～8	実践編 「戦後の飯田写真展」で聞き取り調査	安岡 健一 (顧問研究員)	ほっ湯アッ プル	198 人

（４）市民研究員ゼミ：市民研究員が研究成果を発表する。

開催日	内 容	担 当	場 所	参加者
6 / 14	青年会組織の研究 －自主化達成とその組織体制の考察－	栗谷 真寿美（市民研究員）	歴史研究所	13 人
9 / 20	下黒田村における黒田人形と明神講 －その担い手と村社会－	伊藤 緑（市民研究員候補）	歴史研究所	12 人

（５）講座：出前講座等：各団体機関の要請に応じて対応

開催日	内 容	講 師	依頼先 会 場	参加 人数
7 / 14 15	学びなおし昭和史 満州移民について	本島 和人（調査研究員）	飯田風越高等学校 同上	延べ 10 人
8 / 30	時の駅講座 下伊那の俳句結社	竹村 雄次（特任研究員）	高森町歴史民俗資料館 同上	20 人
9 / 27	座光寺と弓矢沢入	羽田 真也（研究員）	歴史に学び地域を訪ねる会 座光寺麻績の館	25 人
9 / 30	『下伊那史』作成 75 年の歩み	伊坪 達郎（所長）	市民大学講座 飯田市公民館	32 人
10 / 5	立石の地名と立石寺	前澤 健（特任研究員）	伊那谷地名研究会 三穂立石地区	10 人
10 / 23	近現代学校建築見学会	岩田 会津（研究員）	（一社）長野県建築士事務所協会飯伊支部 追手町小など	15 人
11 / 27	大平街道を行き交う人々	羽田 真也（研究員）	鼎歴史を学ぶ会 鼎公民館	26 人
12 / 21	美博文化講座 『下伊那史』を支えた人たち	伊坪 達郎（所長）	飯田市美術博物館 同上	23 人
2 / 22	「空間」から地名を考える －明治期上郷村の地籍資料から－	岩田 会津（研究員）	伊那谷地名研究会 ・飯田中央図書館 飯田中央図書館	35 人
3 / 14	羽場坂にあった飯田歌舞伎座 －曙の里に喝采が響いた－	竹村 雄次（特任研究員）	羽場公民館・羽場の昔を学ぶ会 羽場公民館	50 人
3 / 16	学びなおし昭和史 満州移民について	本島 和人（調査研究員）	飯田風越高等学校 同上	100 人
3 / 26	飯田歌舞伎座についての研究報告	竹村 雄次（特任研究員）	鼎歴史を学ぶ会 鼎文化センター	20 人

（６）歴研ゼミナール及び市民協働ワークショップの開催

歴史の研究方法を学ぶ通年講座。参加者が「ともに学ぶ」ことを重視。

科 目	内 容	開催日	担 当
近世史ゼミ	「飯田御用覚書」を読む	第2・第4 水曜日	羽田 真也（研究員）
近現代史ゼミ	昭和11年の「胡桃澤盛日記」を読む	第4土曜日	田中 雅孝（調査研究員）
満州移民研究ゼミ	文書・記憶個人の日記から考える	第1土曜日	本島 和人（調査研究員）
思想史ワークショップ	「胡桃澤盛日記」を読む	第1・第3 水曜日	自主開催（H24年10月以降）元思想史ゼミ
建築史ゼミ	身近な空間の歴史を調べてみる	第3金曜日	岩田 会津（研究員）
地域史ゼミ	LYL事件の刑事記録を読む	第2木曜日	伊藤 悠（研究員）

（7）市民研究員募集事業

- ・市民研究員養成課程等による飯田下伊那の地域史を研究する人材育成を行う
現在市民研究員候補が1名

（8）美術博物館との共同事業

- ・古文書講座 ゼロから始める古文書 （美術博物館と分担）
研究に関する人材の育成に向けて年度後半にステップアップ講座を開設する
- ・上村・南信濃村合併20周年記念特別展「山とともに生きるー遠山郷のあゆみとくらし」9/13～11/9への展示資料提供協力
- ・「ワクワクびはくで夏休み」への出店 8/2 3コマ 各8名
昨年度に引き続き、地域に残る特徴的な建物の模型を作るワークショップを予定

（9）歴研ニュース発行

- ・市民、研究教育機関等に対し、歴史研究所の研究教育概要を案内。
A4判4頁カラー刷り、年6回 偶数月1日発行（No.135～140号）

（10）歴史研究・職場体験学習受入れほか

- ・中学校、高校体験学習
飯田 OIDE 長姫高等学校 3名 7月11・12日（金・土）
旭ヶ丘中学校 2名 7月24・25日（木・金）
- ・学輪 I I D A 関連 1月24日飯田学  大学で研究成果パネル発表

（11）地域連携・支援

- ・座光寺：歴史に学び地域をたずねる会との協働、古文書講座への講師派遣
- ・川路：百花園関島家文書の管理

3. 市誌編さん事業

- ・『画像で見る 飯田歌舞伎座ー明治の幻の大劇場ー』の出版 [A5版 60頁 4C 400部]
- ・『飯田・下伊那の建築と景観 和田のまちなみと遠山谷の斜面集落』の出版 [B5版 132頁 1C 400部]
- ・『飯田市歴史研究所年報』23の出版 [B5版 190頁 1C 400部]

4. アーカイブズ保存活用事業

(1) 書庫内への文書保管作業及び史料公開

私文書の調査。維持管理が難しくなった文書の引き取り（寄贈・寄託）。整理作業を経て目録等の公開を行う。

文書目録のデジタルデータ化

(2) 非現用公文書の移管

令和7年度に廃棄対象となった文書（非現用公文書）のうち、歴史的価値あるものを歴史研究所に移管し、目録作成作業後、押洞書庫に保管。

(3) 学校史料調査

竜丘小学校史料の調査（簡易目録作成・撮影など）を行った。

(4) 上郷歴史民俗資料館収蔵史料の移転

上郷地区児童館統合に伴う資料館の小学校内移転のため、資料館内の収蔵史料(旧上郷町役場文書)を旧高松児童館施設内に仮移転を行った（6月17日）。

(5) 当研究所所蔵史料及び旧役場文書の総数量調査

当研究所書庫、愛宕蔵、押洞書庫内史料及び各自治振興センター等保管の旧役場文書の総数量調査を行った。

5. 講座参加と書籍購入の利便性向上の取り組み

「ながの電子申請サービス」のシステムを利用してキャッシュレス決済を可能にした。

- ・ 講座参加申し込み及びオンライン参加の資料代支払い
- ・ 書籍購入（歴研ウェブサイトから購入専用フォームにつながる）

6. 恒久的施設の立地・環境改善に向けた検討

将来的に社会教育機関が集積する位置への立地や施設環境のほか、飯田市の歴史公文書に関する課題について検討を進めるため、松本市及び安曇野市の文書館の視察を行った（5月16日）。

【資料】研究集会及び教育・普及事業（各種講座等）への参加者数〔7年度及び過年度の実績〕

年 度	区 分	研究集会	アカデミア	ワークショップ	地域史講座	定例研究会	ゼミナール	合 計
令和7年度	開催回数	1	3	0	4	5	93	106
	参加回数	142	225	0	240	39	536	1,182
令和6年度	開催回数	1	4	2	1	6	79	93
	参加者数	137	266	55	33	50	523	1,064
令和5年度	開催回数	1	4	2	2	6	65	80
	参加者数	156	356	106	47	56	508	1,229
令和4年度	開催回数	1	4	3	2	6	87	103
	参加者数	244	170	142	60	67	548	1,231
令和3年度	開催回数	1	2	1	1	7	76	88
	参加者数	100	89	80	20	48	455	792
令和2年度	開催回数	0	2	—	4	7	62	75
	参加者数	0	34	—	120	81	433	668
令和元年度	開催回数	1	4	—	4	5	84	98
	参加者数	163	301	—	205	54	505	1,228
平成30年度	開催回数	1	4	—	5	6	88	104
	参加者数	156	165	—	141	85	460	1,007
29年度	参加者数	88	130	29	204	91	598	1,140
28年度	参加者数	201	209	39	246	168	581	1,444
27年度	参加者数	127	175	20	118	138	1,022	1,600
26年度	参加者数	189	131	149	125	103	1,281	1,978
25年度	参加者数	251	160	60	159	66	951	1,647
24年度	参加者数	222	161	—	125	246	1,098	1,852
23年度	参加者数	163	132	—	163	54	525	1,037
22年度	参加者数	196	167	—	112	147	463	1,085
21年度	参加者数	170	302	—	112	62	455	1,101
20年度	参加者数	71	225	—	182	130	530	1,138
19年度	参加者数	104	127	—	148	43	430	852
18年度	参加者数	266	167	—	—	80	(878)	(1,391)
17年度	参加者数	118	161	—	—	—	(989)	(1,268)
16年度	参加者数	134	153	—	—	—	(779)	(1,066)
15年度	参加者数	170	167	—	—	—	—	337

※18年度以前のゼミ参加者数は登録人数と回数から算出

※22年度の研究集会には「伝統都市の比較史」共催円座を含む

※29年度以前は参加者数